何時もあかりを横に請て、ゆがまぬように竪に置也、碁盤の上にごげ置ながら、わろく持ては自然すべりて落る物也、持にくきと思は　先碁盤を出し、後にごげを持て出、盤の上にたてに置くべし、北東に白を置樣にすると云説有、それは餘り物ゑりがほにてわろし、何となく長き方にたてにごげ三ッならべて置べし云々、ごげは碁笥なり

〔嬉遊笑覽四雜伎〕古昔碁子、貴人及高手黑を用ゆ、今ゑからずといへり、前にもいへるごとく、上手とて黑を取にあらず、貴人長者は黑をとる也、二人同等の人ならば、上手のかた取べきにや、貞德が油粕、握られん物かやたゞは置まじや調半とふもつらき碁がたき、吾吟我集、ちやうはんと名のりかけ碁の勝負にはぬすみをするは道理せんばん、續山井、如貞、握る手をてうか半とやかき蕨、

〔懷風藻〕辨正法師者、俗姓秦氏、性滑稽善談論、少年出家、頗洪玄學、大寶年中、遣學唐國、時遇李隆基龍潛之日、以善圍碁、屢見賞遇、

圍碁例

〔江談抄三雜事〕吉備入唐間事

吉備大臣、入唐習道之間、諸道藝能、博達聰慧也、唐土人頗有恥氣、〇略中唐人議云、才ハ有ドモ藝ハ必シモアラジ、以圍碁欲試ト云テ、以白石擬日本、以黑石擬唐土、以此勝負殺日本國客樣ヲ欲謀間、鬼又聞テ令告吉備、吉備令問聞圍碁有樣、就列樓計組入三百六十目計別天指聖目、一夜之間、案持了之間、唐土圍碁上手等撰定集テ令打ニ、持ニテ打、無勝負之時、吉備偷盜唐方黑石飲了、欲決勝負之間、唐負了、唐人等云、希有事也、極テ恠ト云テ計石爾黑石不足、仍課卜筮占之、盜テ飲ト云、推之大爾爭爾在腹中、然者瀉藥ヲ服セシメントテ、令服呵梨勒丸、以止封不瀉之、遂勝了、

〔續日本紀十聖武〕天平十年七月丙子、左兵庫少屬從八位下大伴宿禰子虫、以刀斫殺右兵庫頭外從五位下中臣宮處連東人、初子虫事長屋王、頗蒙恩遇、至是適與東人任於比寮、政事之隙、相共圍碁、語及長屋王、憤發而罵、遂引劒斫而殺之、東人卽誣告長屋王事之人也、